知恵なのか、わがままなのか？

子どもを持つのを遅らせたり計画したりすることそのものが、必ずしも罪深いことだと言っているのではありません。しかし、賢い計画とわがままな計画とは区別すべきです。そして、どっちがどっちかを、正直に見きわめるほうがいいのです。

賢い計画とは、子どもの最善を考えた将来の計画です。私は、出産を延期して自分の勉強を終えることを優先し、子どもが産まれる時には、少なくとも片親が家にいられるようにすることは、クリスチャンとして責められることは何もないと思います。

逆に、経済的な安定という口実で、条件を絶えずきびしくして行く時、わがままが入り込むのです。自分の優先順位について本当に正直になれば、贅沢な自家用車を持つとか浜辺でゴージャスな休暇を楽しむことを、子どもが産まれる前に正当化することはむずかしいでしょう。

出産計画についての問題で、最後にふれたいのは、私たちの計画がどうであれ、もし出産を遅らせようという計画が失敗に終ったら（だれでも時には失敗します）、自分の考えた時ではなくても、神の計画として子どもたちを迎えられるよう、自分自身の心を鍛錬する必要がある、ということです。

神に殺されたオナン

これと関連していますが、もうひとつ私がここで考えておきたいのは、性と生殖とは無期限に分離できる、という思い込みです。この考えを攻撃するのによく使われる聖書箇所は、オナンが今で言う「中絶性交」をしたために神に殺された（！）という創世記38章9～10節です。すべての避妊に反対する信者は、すべてを神におまかせし、許されるかぎり子どもを産むべきだということを「証明」するために、この聖句を引用します。残念ながら、そういう読み方は正しくはありません。

オナンの罪は、一般的な妊娠を妨げようとしたことではないことを、前後関係から十分に示せると私は思います。真の問題は、彼のわがままと、義理の姉であるタマルの世話を拒んだことでした（注3）。

そういうわけで、聖書解釈の問題はクリアしましたが、性を生殖と切り離してよいのはいつか？　という問題にはまだ応えていません。ローレン・ウィナーは、『性の真実（邦訳なし）』で、こう書いています。

「性行為と生殖との間には深い関連性があることについては、私たちの経験と医学と聖書が一致しています。効果的な避妊の技術が、その関連性を裁ち切ってしまいました」

言い換えれば、もし望むなら、私たちは出産や育児のことを考えることなしに、一生セックスを続けることもできるのです。しかし、これが望ましい姿なのでしょうか？

カトリック教会はこれを誤りとし、器具であれ薬であれ、すべての人為的な避妊を禁じます。私自身は、これが唯一の聖書的な結論だとは思いませんが、カトリックの見解の背後にある原則は考えるべきものと思います。ウィナー氏はこう続けます。

「性と生殖の関連性を確認しても、必ずしもカトリックと同じ見解に達する必要はありません。たとえば、既婚者の人生の全体が生殖というチャンスに開かれているべきだが、すべての性行為がそうでなければならないとは言えない、という意見もあります。しかし、私たちが科学技術が性と生殖を切り離してしまったことを憂えるのは、性の本来の目的を侵害しているからです」（注4）

カトリック以外のクリスチャンが、性と生殖の関連性について考えることはほとんどないと思います。もっと注意すべき課題です。

（中略）

最後に

夫と私は、彼が一年半後に卒業するまで子どもを産むのは遅らせることを決めました。ですから、いろいろ考えてはみたものの、結局はスタートラインに戻った、ということはできるでしょう。ただし、私自身が変わりました。避妊についての自分の思い込みが揺さぶられたおかげで、自分の新たな一部分を神さまに明け渡すことができました。また子どもを育てることについての神の計画をよりよく理解するのに役立ちました。

ですから、いざとなったら、私は心ぞなえができています。

（注１）「ほとんど」と言うのは、あるクリスチャンは独身に召されていて、あるカップルは不妊に悩むからです。しかし、大半の者にとって、創世記１章28節、申命記６章６－７節、箴言３章12節などは心に留めるべき箇所です。私たちの優先順位を思い起こさせてくれます。
（注２）ヤコブ４章13-15節、箴言16章９節参照
（注３）オナンは、義理の姉と結婚をすべきでした。その結婚から産まれる第一子は、兄エルの子どもとされ、エルの家系が途絶えないで済んだはずです。このような期待が、申命記25章５～６節にある定めの先駆けになっています。
（注４）Winner, Lauren. Real Sex: The Naked Truth About Chastity (Grand Rapids: Brazos Press, 2005), p. 67.
＊リンディー・キーファーさんは、フォーカス・オン・ザ・ファミリーのスタッフで、フォーカスの学生向けウェブサイト(TrueU.org)に寄稿している。英語教育専攻、テイラー大学卒。趣味は登山で、海外にも遠征することがある。＜本稿は、フォーカス・オン・ザ・ファミリー制作の大学生向けサイト（TrueU）から、フォーカスの許可を得て引用翻訳しています。＞

Original Title: The Back Story on Birth Control by Lindy Keffer.
From TrueU.org, a Focus on the Family website. Copyright © 2006, Focus on the Family.
All rights reserved. International copyright secured.
Used by permission.